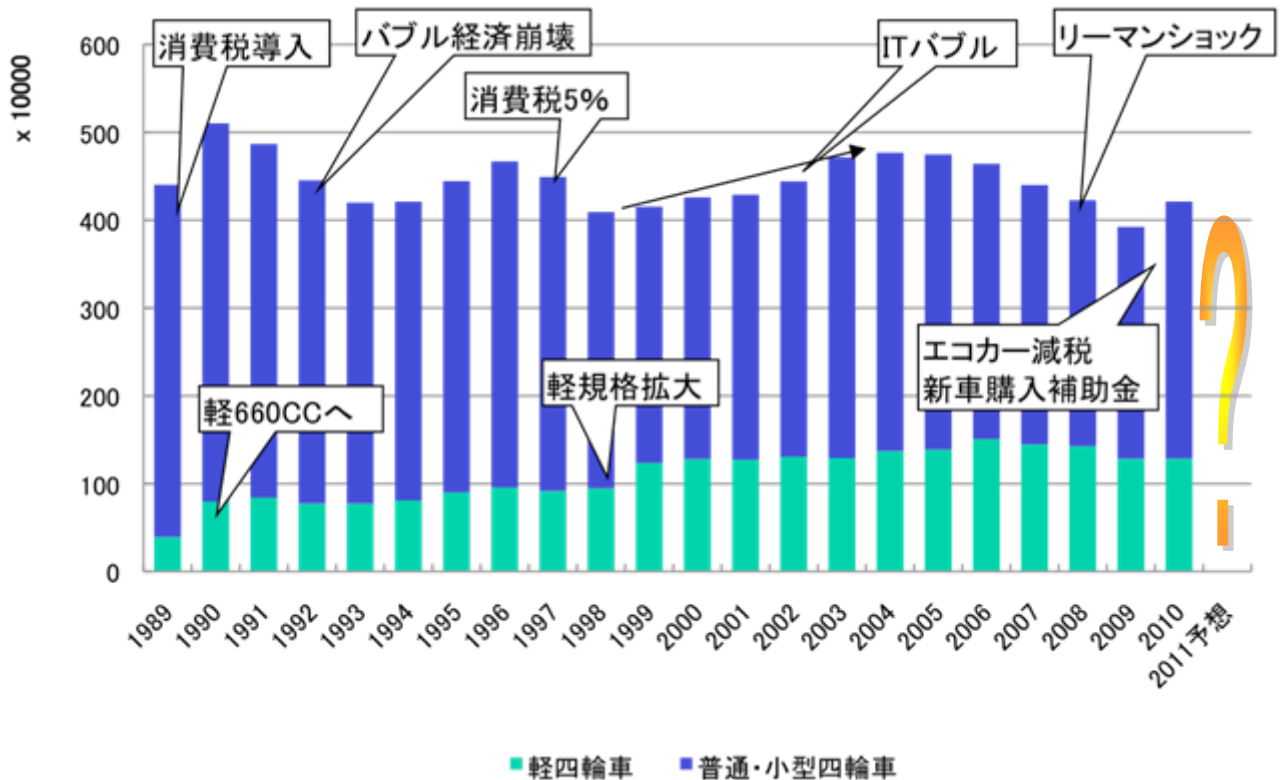


2011年 自動車販売はどうか？ ～ 購入補助金終了で大幅減が予測される新車市場 ～

ITバブルで好景気だった2000年代前半以降厳しい状況だった新車市場。08年のリーマンショックは不況を決定的なものとし、自動車はその影響を最も受けたジャンルだ。政府は新車に購入補助金を用意し、新車の販売台数は激増した。しかし、その補助金も10年9月に終了すると新車販売は前年を大きく割り込むようになる。

そこで2011年の自動車市場の行方がどうなるかを占ってみた。



2011年は自動車業界にとって激動の1年間だった。政府の「エコカー減税・エコカー購入補助金」策が功を奏したのだが、特に補助金の効果は靦面で補助金開始後に前年を大きく上回る販売台数を記録し続けた。補助金自体は09年4月から実施されているため、通年では前年を10%ほど上回る程度であったが、期間中は前年を2～3割上回る実績を記録している。

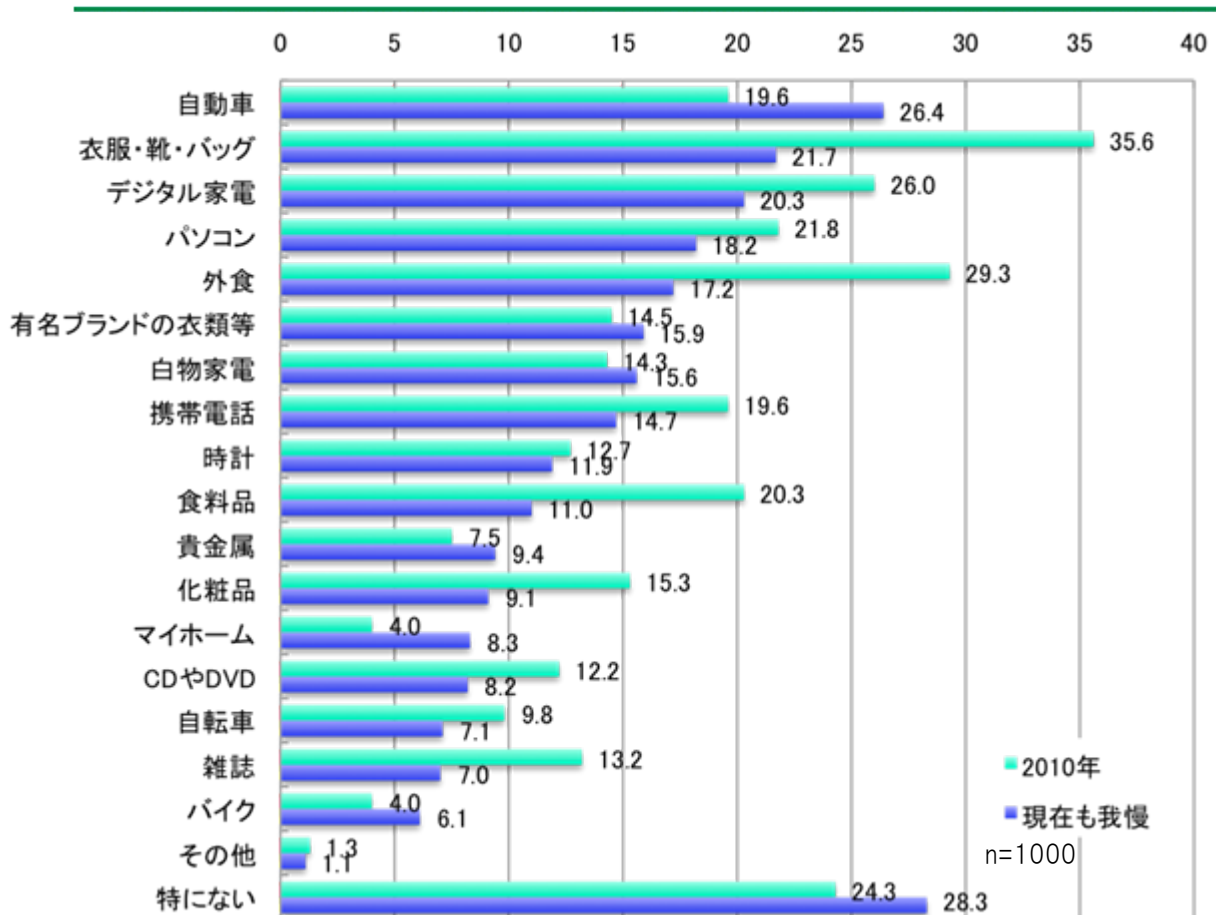
しかし、9月7日に予算を使い果たすとそれまで好調だった新車市場は一転し前年を大きく下回るようになってきた。減税は継続しているものの、補助金がなくなった影響が即座に表れた格好だ。急激な景気回復や新たな需要が発生しない限りこのままでは新車販売は厳しい状況にある。

逆に、補助金の影響で厳しい状況だった中古車市場には光明が差し込んだともいえる。長引く不況の中、中古車需要は増加。新車2:中古車1といわれる新中比率が変わる可能性も出てきたといえるだろう。

※グラフ: 日本自動車販売協会連合会発表数値を元に作成

今、購入を我慢するもの・・・「自動車26.4%」

昨年終了したエコカー購入補助金。しかし、終了間際には駆け込み需要が発生し、実際のところ最後には受給できなかったユーザーもいたようだ。結果的に補助金のおかげで潜在的なニーズがある程度解消された2010年だったといえるだろう

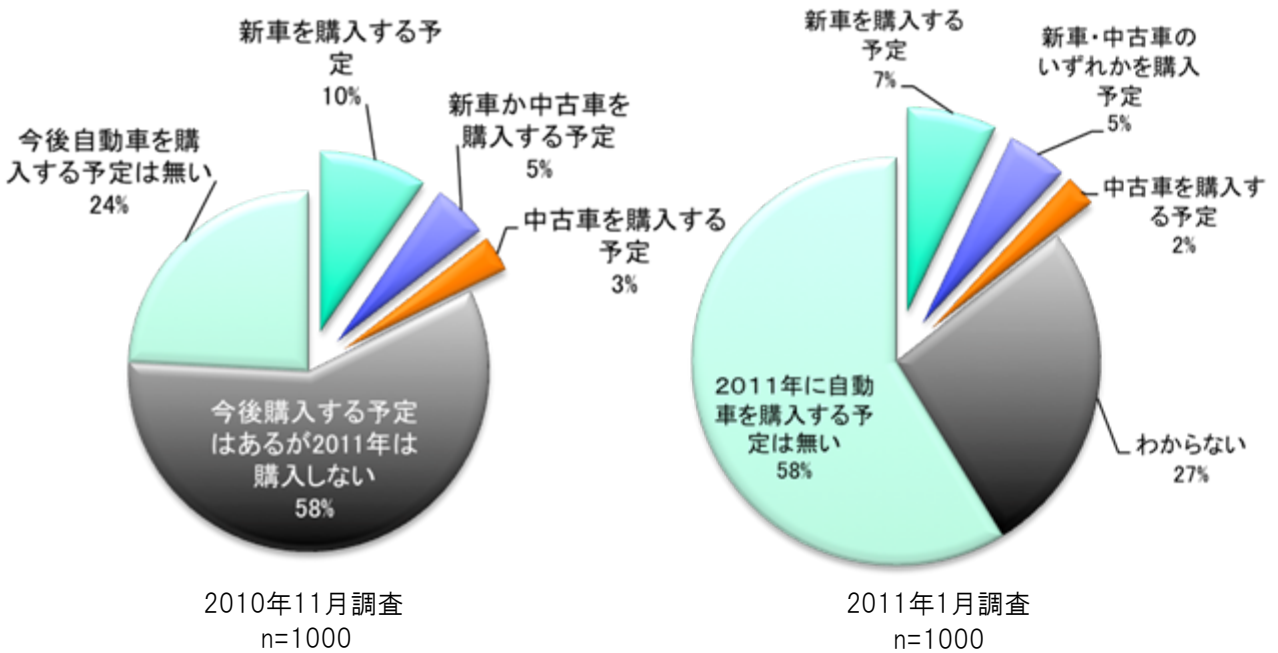


「2010年に購入を我慢したもの」「現在も我慢しているもの」を共に聞いたところ、「現在も我慢」しているもので最も多かったのが「自動車」だった。昨年までは新車にはエコカー補助金が交付されており、購入のきっかけのひとつともなった。しかし、その補助金が終了したことで我慢しているユーザーが増えているようだ。

逆に衣類やデジタル家電、食品関連などを我慢している回答者は減少しており、この不況から脱しつつあるユーザーが多く、景気回復もそこまで来ているのかもしれない。しかし、高額な自動車の購入を我慢しているユーザーが多いのも事実であり、現実にはまだまだ不況が続く事が予想される。

2011年 自動車の購入予定は？・・・15%が購入予定

2011年に自動車を購入する予定があるかどうか聞いたところ新車・中古車合わせて15%のユーザーが自動車を購入する予定があると回答した。また、新車・中古車別では新車と回答しているユーザーが中古車の倍以上となるが、新中いずれかと回答するユーザーも5%と多く、補助金のない今年はここから中古車に流れてくる事が予想される。

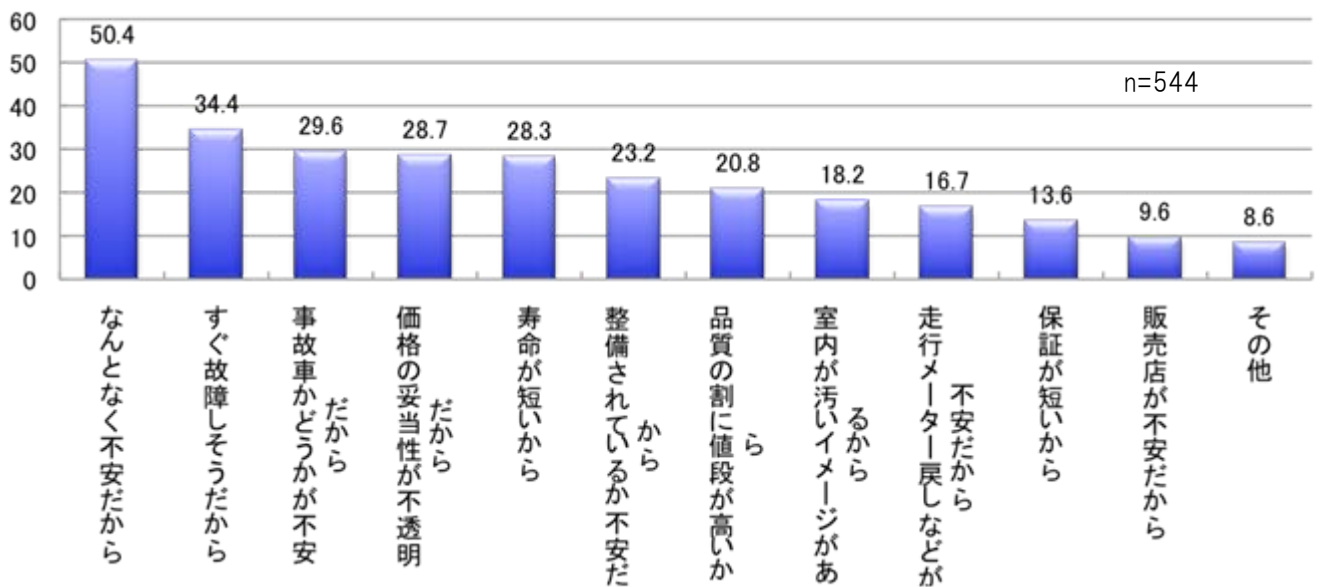


2011年に自動車を購入する予定があるユーザーは約15%。そのうち7%が新車を購入予定と回答している。これは、昨年11月に調査した結果と比較して3%ほど減少しており、昨年補助金で盛り上がった新車熱が冷めてきている事が予想される。

それに対して中古車あるいはいずれかを購入予定と回答したユーザーは3%・5%でこれは昨年11月調査のものと同様変わらない。選択肢が全く同一ではないため厳密な比較はできないが、購入予定があるユーザーだけで比較すると、新車の購入予定とそれ以外の購入予定には明らかな差があり、昨年の反動もあり中古車の巻き返しが期待される。2011年はエコカー補助金はなく、長引く不況という背景があるが、クルマが必要なユーザーはまだまだ沢山居る。不況だからこそ安く購入できる中古車を選択するユーザーが増加傾向になるだろう。

中古車購入のポイントは・・・不安解消が必要

補助金終了で注目される中古車だが、中古車を購入対象としていない新車ユーザーに中古車を購入しない理由を聞いてみたところ、最も多かったのが「なんとなく不安・・・50.4%」だった。「なんとなく」というあいまいな回答は、これまで体験した事がないことの裏返しともとれるが、ちょっとしたきっかけで解決できそうな課題だ。



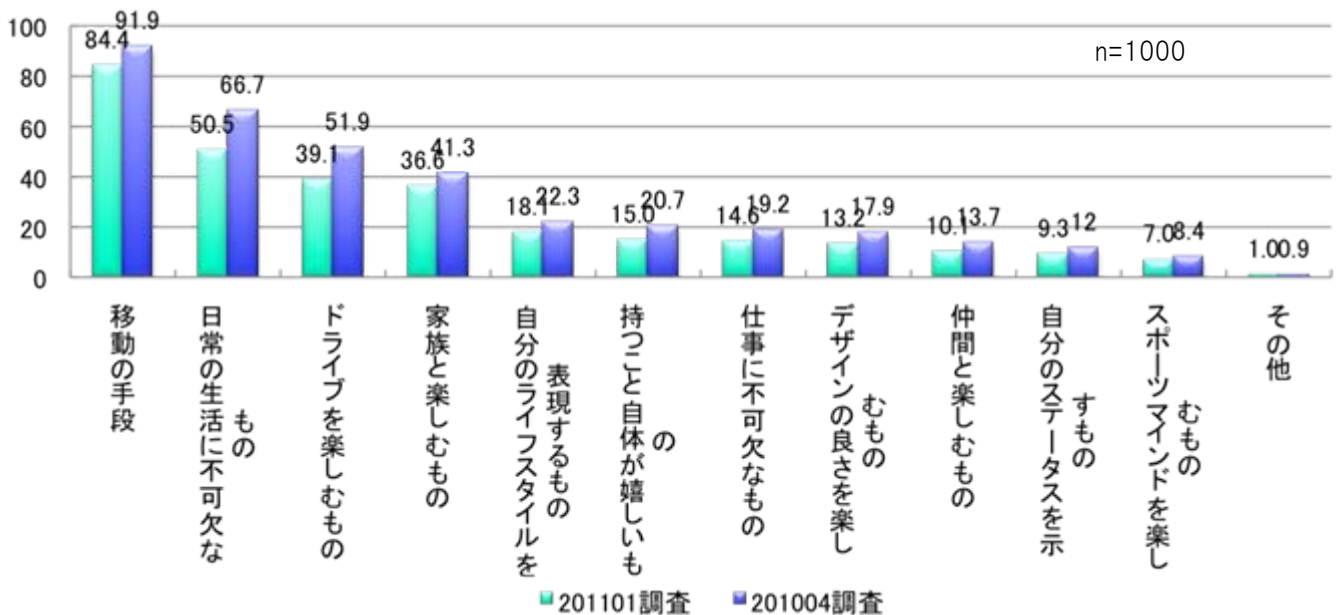
現在新車を保有するユーザーと今後新車を購入予定の合計544人になぜ中古車を購入しないか聞いたところ、「なんとなく不安・・・50.4%」「すぐ故障しそう・・・34.4%」「事故車かどうか不安・・・29.6%」と目に見えない部分の不安が上位となった。

特にトップだったのが「なんとなく・・・」という回答から想像すると、中古車が未体験だから生まれる不安ではないだろうか。既に経験していれば、具体的な不安が出てくるものだ。

中古車ユーザーの増加には長引く不況と、エコカー補助金終了による新車離れという状況は中古車業界にとっては好機といえる。大手新車メーカーも積極的に中古車を売り出してきている今、中古車ユーザーが増加する要素は揃ったといえる。

あなたにとって自動車とは・・・「移動の手段・・・84.4%」

ユーザーにとっての自動車の価値観を聞いたところ最も多かったのが「移動の手段」だった。「日常の必需品」という声も高く、都市部を除いて「足」としての自動車が必要だ。また、各スコアが昨年の調査結果より減少しており、補助金が終了して自動車熱が冷めてしまったようだ。自動車に対するこだわりも少なくなるということは、購買行動の変化が期待できる。



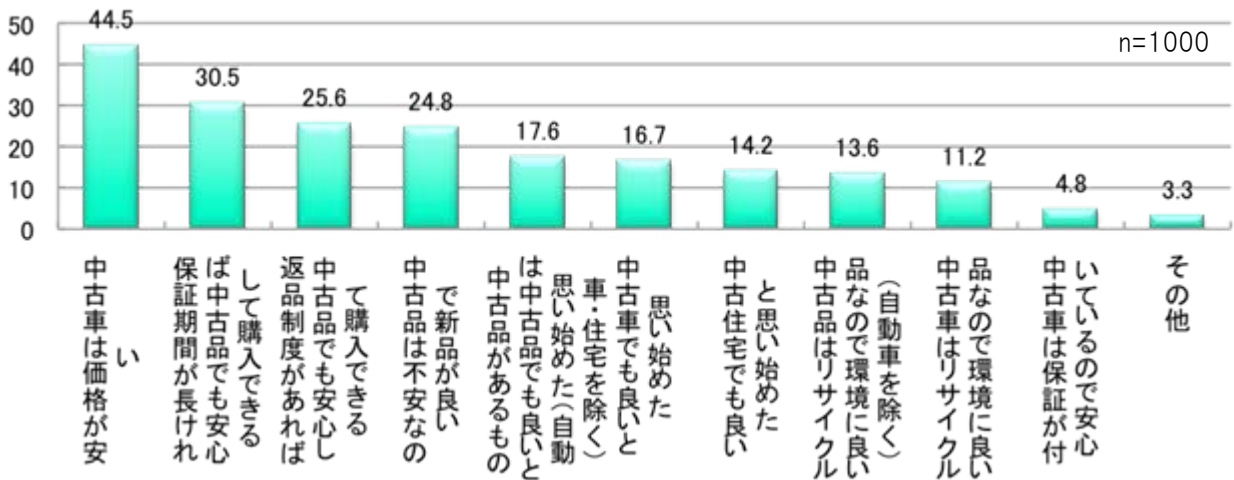
自動車に対する価値観は時代と共に移り変わるものだが、補助金があった昨年と無くなった今年でもさがでている可能性がある。上は昨年4月の調査データと今年1月のデータ比較だが、総じて今年実施の調査のほうが低いスコアになっている。それぞれ別な調査会社を利用して調査した結果なので結果の誤差である可能性は否定できないが、昨年よりも全体的に反応が鈍くなっている。

昨年は補助金があり自動車業界に対する注目も高かったことから、自動車そのものに対する注目度も高かった可能性がある。中でも「日常の生活に不可欠」「ドライブを楽しむ」のふたつが落ち込みが激しかった。自動車に対する注目が高いほど、自動車の利用シーンのイメージがしやすく、総じて高いスコアになったのではないかと推測される。

需要の先食い、税金のばら撒き施策などと言われたエコカー購入補助金だが、やはりそれはそれで新車の販売台数の実績同様に効果があったといえる。

中古品のイメージ・・・「保証・返品」がカギ？

中古品に対する印象を聞いたところ最も多かったのは「価格の安さ」と当たり前の回答だった。しかし「保証が長ければ」「返品制度があれば」購入しても良いという回答も目立ち、補助金がなくなった2011年は販売店のサービスによって売れ行きが変わる可能性もある。2011年の中古車に期待したいところだ。



中古品に対するイメージを聞いた結果、「保証期間が長ければ」30.5%「返品制度があれば」25.6%「中古車でも良いと思いはじめた」16.7%と中古車を肯定する回答が得られた。

この結果は2010年に行った同様の調査とほぼ同じ内容である。09年から10年にかけて実施されたエコカー補助金の影響で、昨年9月以降の新車市場は厳しい状況にある。需要の先食いをしている状況での支援策終了のため、9月以降の新車市場の販売台数低迷は予想通りだ。

そんな中で比較的數字変動が緩やかな中古車登録台数。これは、これらの調査結果のように元々の中古車ユーザーに、新車ユーザーながら中古車を選択してもよいというユーザーが加わる事でこの不況下でも新車ほどの落ち込みを見せずに済んでいるのではないかと推察される。

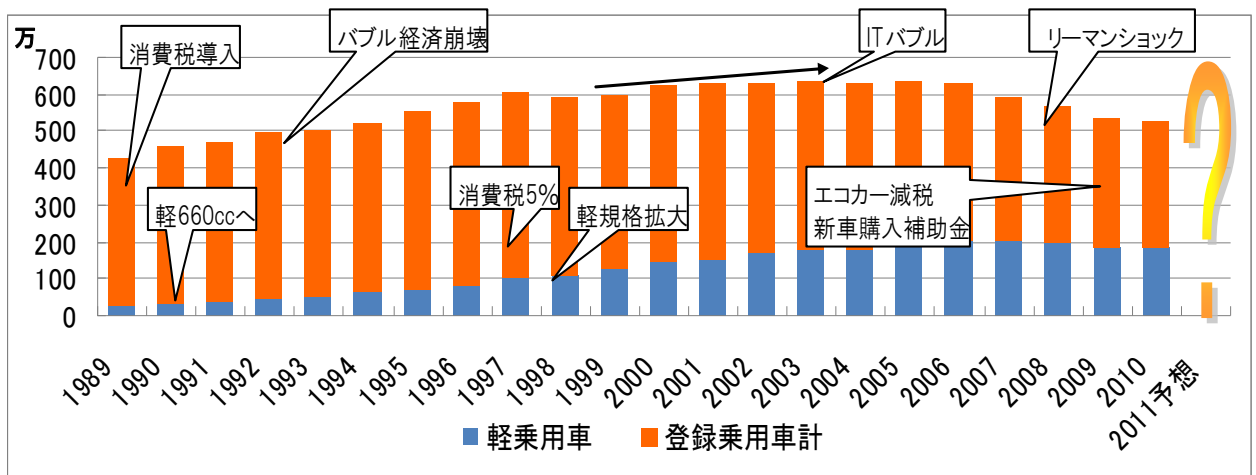
当レポートの調査概要

実施期間 2011年1月7日～2011年1月10日
 調査対象 運転免許を保有している18歳～69歳の方
 調査地域 全国
 調査方法 インターネット調査
 調査実数 1000サンプル
 調査企画 ガリバー自動車研究所
 調査機関 株式会社マーシュ

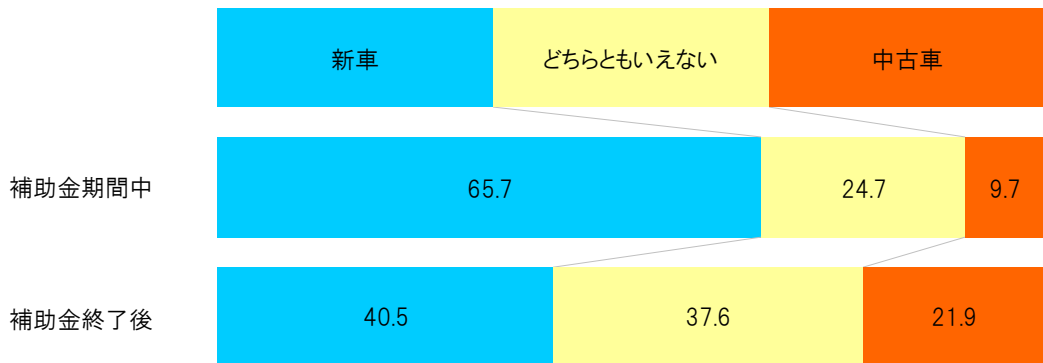
2011年の自動車販売・・・中古車シフト鮮明に？

2011年の自動車市場は新車市場がマイナスとなるのは補助金が無くなった事により確実とみられている。逆に中古車市場は昨年実施した調査でも中古車を選択するユーザーが拡大する事が予想され注目だ。特に市場に占める構成比では中古車ユーザーの増加が期待されている。

中古車：乗用車登録台数推移



あなたは購入を検討するなら新車？中古車？（各項目単一回答:n=1,500）2010年9月調査



2011年の自動車市場は昨年9月に実施した調査結果通り、中古車へとシフトする事が予想されている。ただし、レポート中にもある通り、これまでの新車ユーザーは中古車に対して少なからず抵抗を持つユーザーが多く、価格の安い中古車で良いとは素直に考えないだろう。

新車から中古車へシフトするユーザーの多くは、保証面で安心できる大手販売店や新車メーカー系の販売店を選択する可能性があり、市場の寡占化も進行する可能性がある。今年の中古車は安心感の訴求もひとつのポイントになるかも知れない。

※グラフ：日本自動車販売協会連合会発表数値を元に作成